

くまもと森都総合病院が担う 役割について

平成30年11月12日

医療法人創起会 くまもと森都総合病院

理事長・院長 藤山 重俊



主要項目



■所在地：熊本市中央区大江3-2-65

■主な機能：

DPC対象病院 臨床研修病院 救急指定病院

熊本県指定がん診療連携拠点病院 在宅療養支援病院

熊本県肝疾患専門医療機関 日本医療機能評価機構認定病院

■病床数 / 診療科：199床 / 19診療科

再掲) 病床：一般154床 地域包括30床 緩和ケア15床

■平均在院日数：11.1日 (H29年度)

■職員数：402名 (H30.4.1現在)

再掲) 常勤医41名 非常勤医17名 (常勤換算1.85名) 研修医3名

理念

私たち くまもと森都総合病院は、質の高い医療を通じて地域に愛され、親しまれる病院を目指します。

基本方針

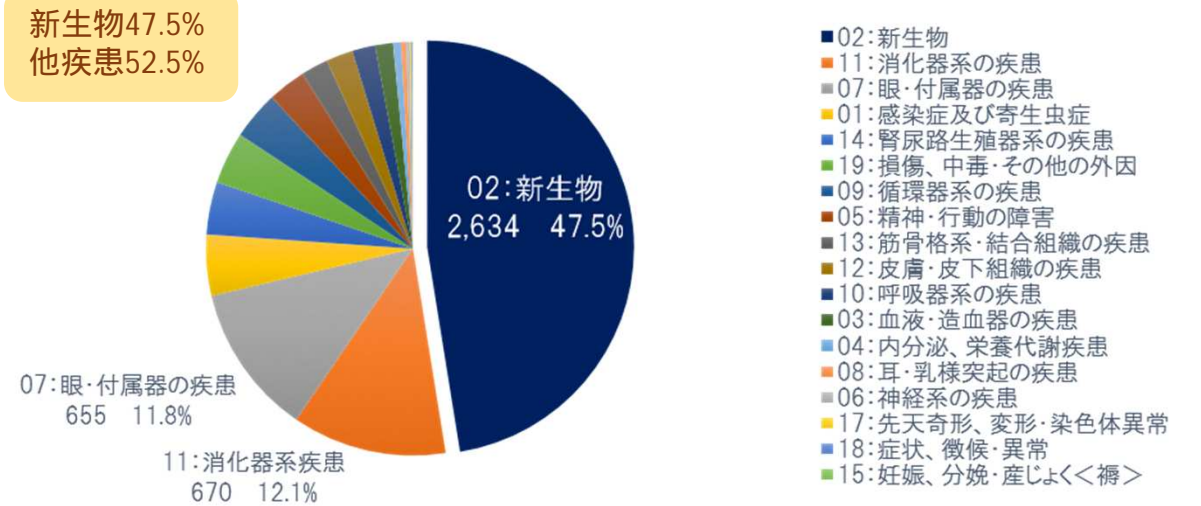
- 患者さんと良好なパートナーシップを築き、満足度の高い、心かよう医療の提供に努めます。
- 地域医療機関との連携を密にし、地域に根ざした医療サービスを推進します。
- 優れた医療人を育成し、安全で質の高い医療を提供します。

現状と課題 診療実績

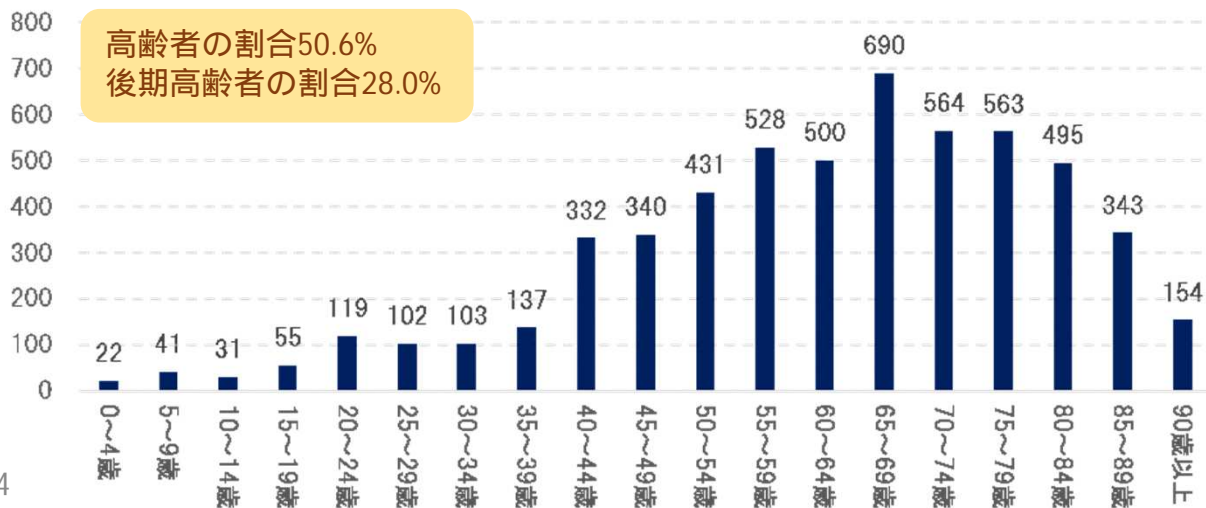
医療圏別 入院患者分布 (H29年度)



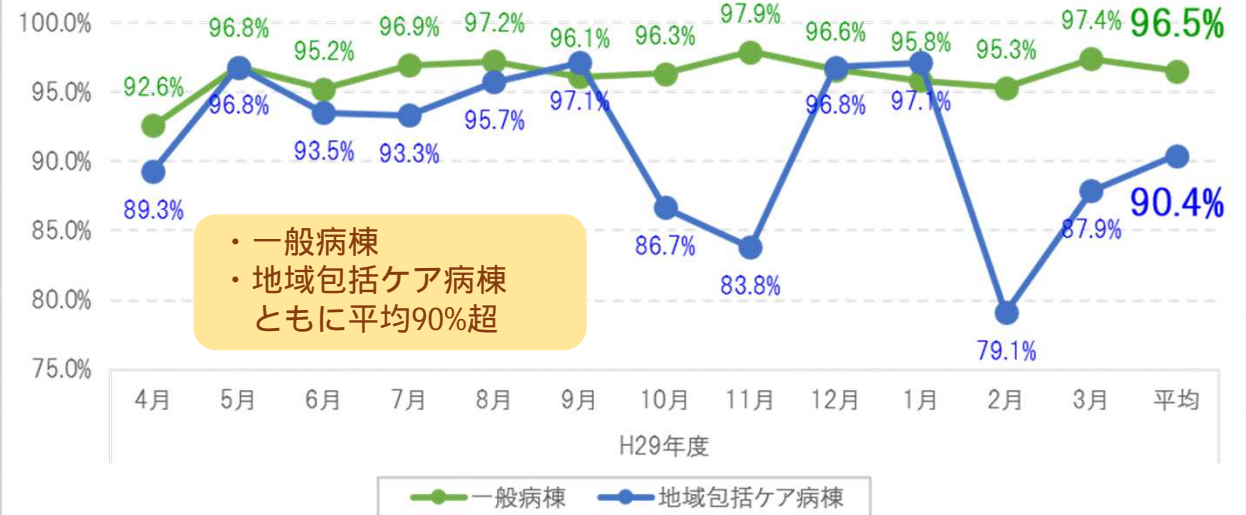
入院患者ICD大分類疾患構成 (H29年度)



入院患者年齢分布 (H29年度)



在宅復帰率 (H29年度)

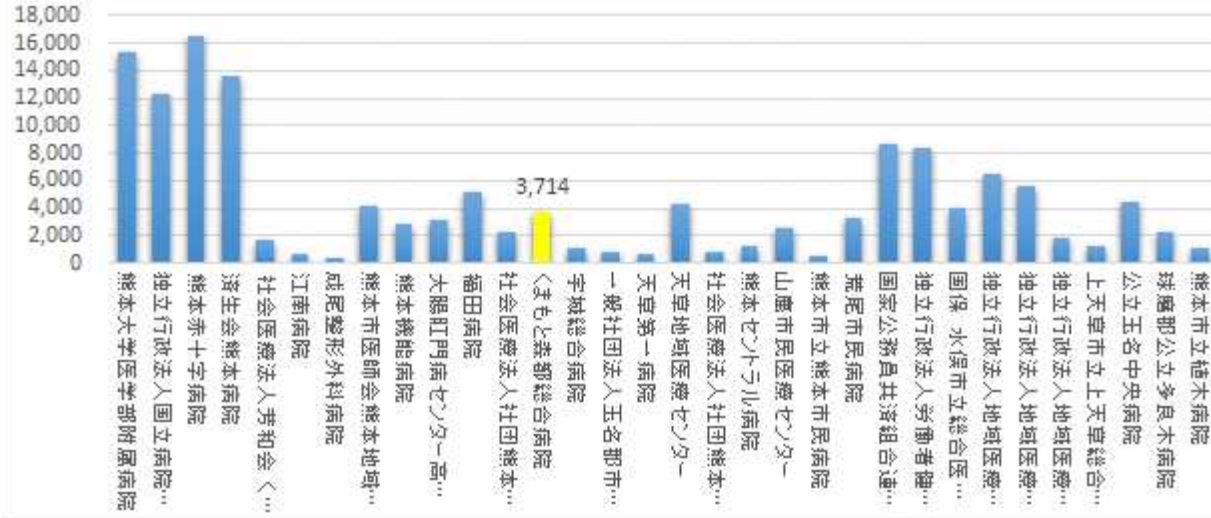


現状と課題

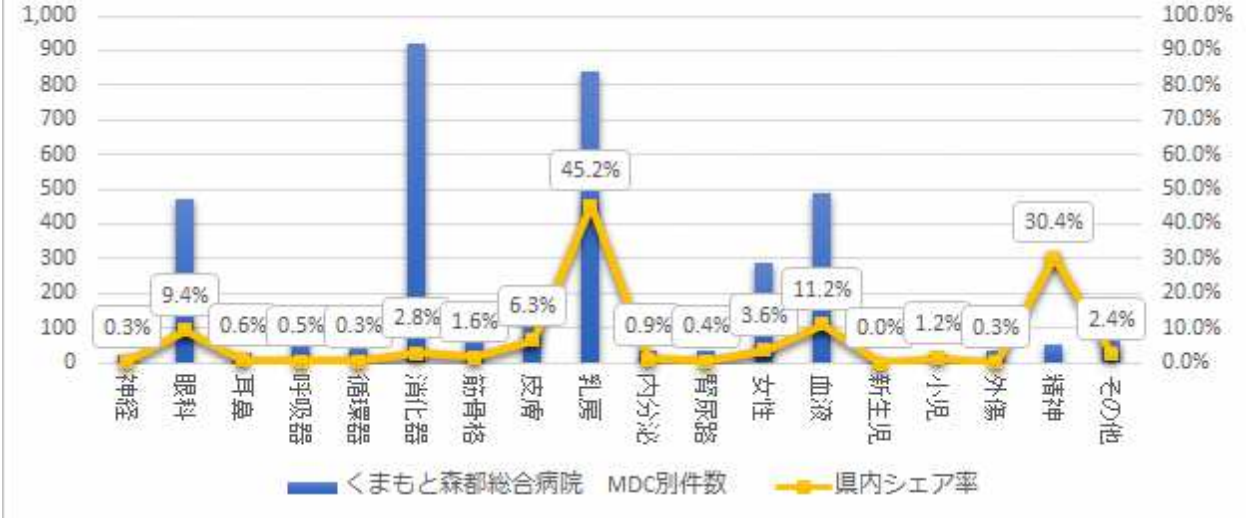
診療実績

H28年度DPC退院患者調査データより

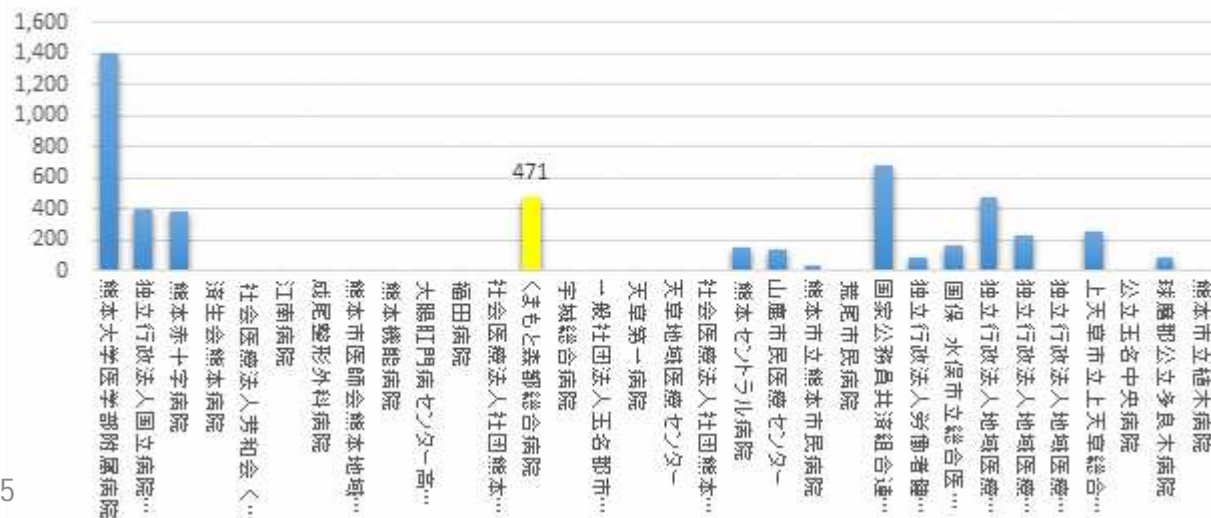
当院の熊本県内実績



当院のMDC別実績



MDC02眼科系疾患



MDC06消化器疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患

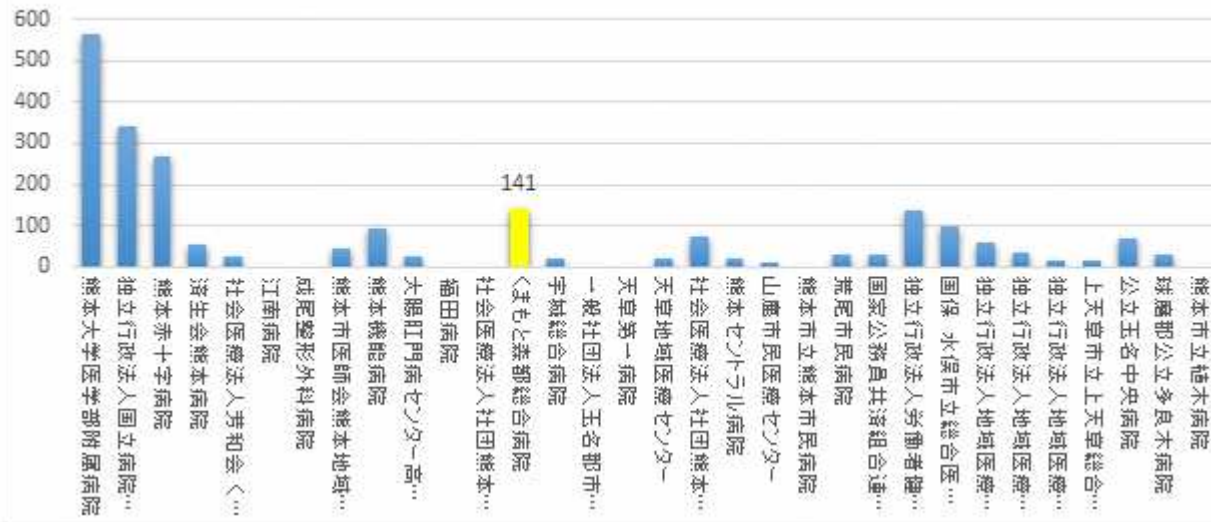


現状と課題

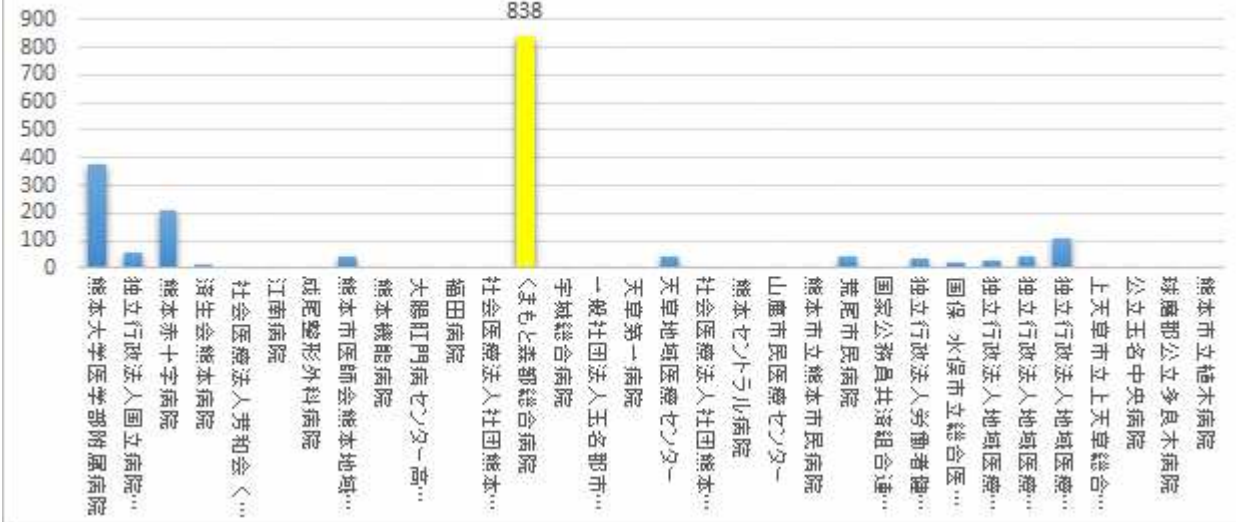
診療実績

H28年度DPC退院患者調査データより

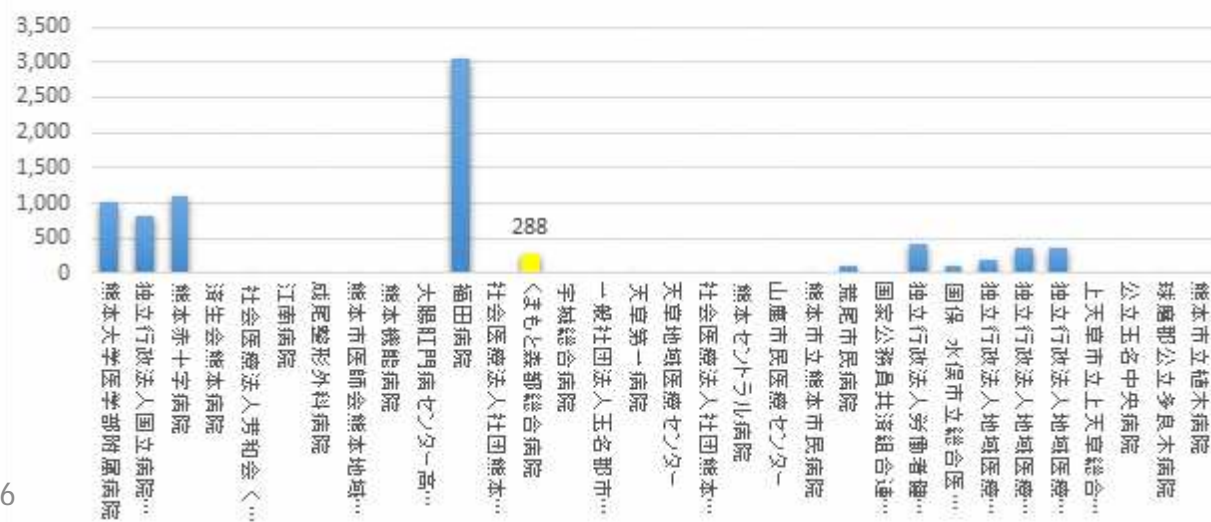
MDC08皮膚・皮下組織の疾患



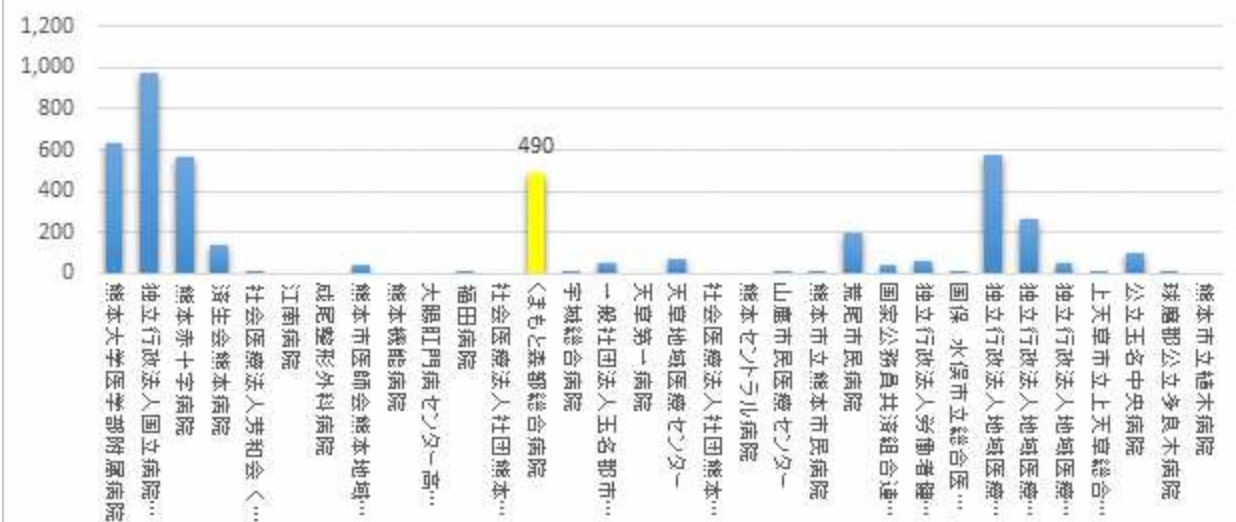
MDC09乳房の疾患



MDC12女性生殖器疾患の疾患

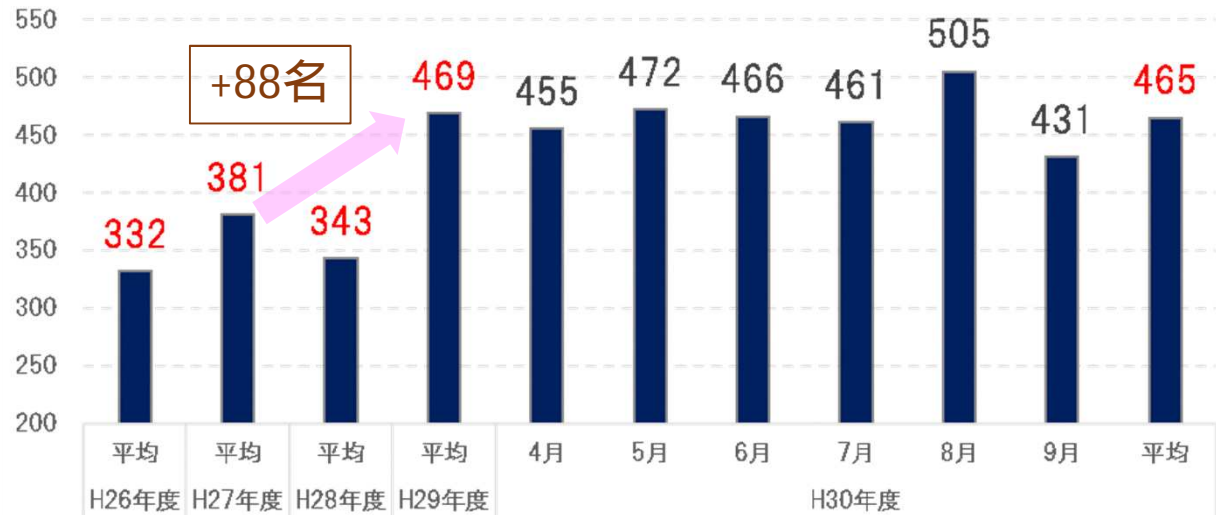


MDC13血液・造血器・免疫臓器の疾患

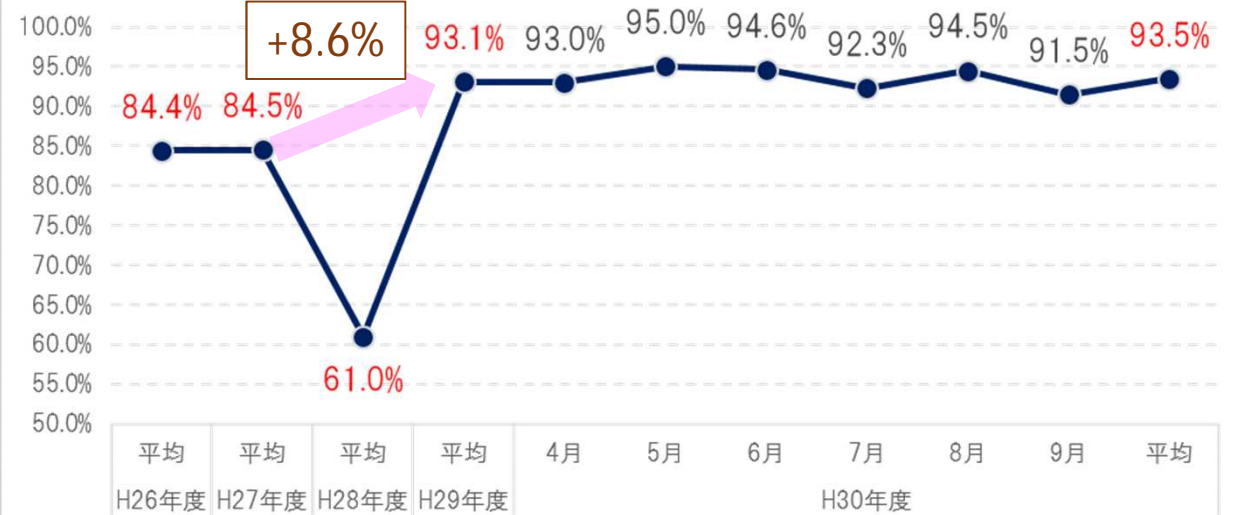


現状と課題 診療実績

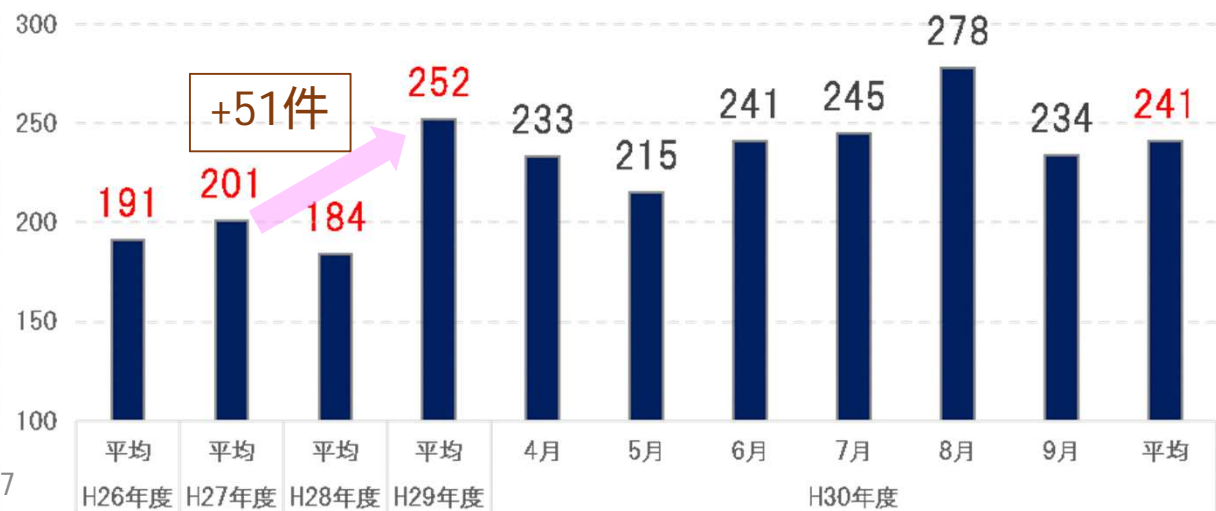
新入院患者数



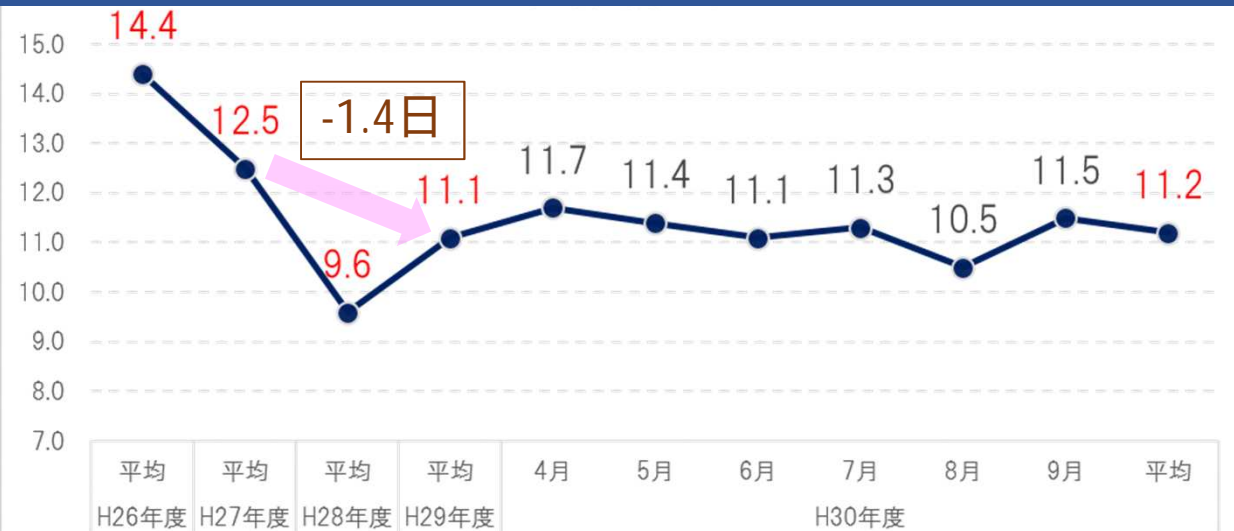
病床稼働率



入院手術件数

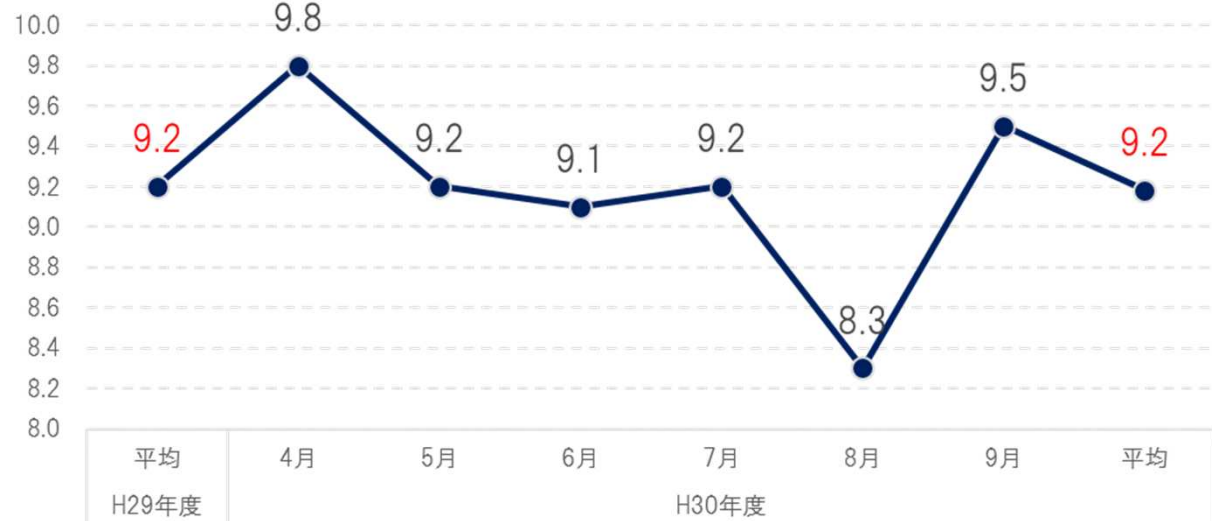


平均在院日数

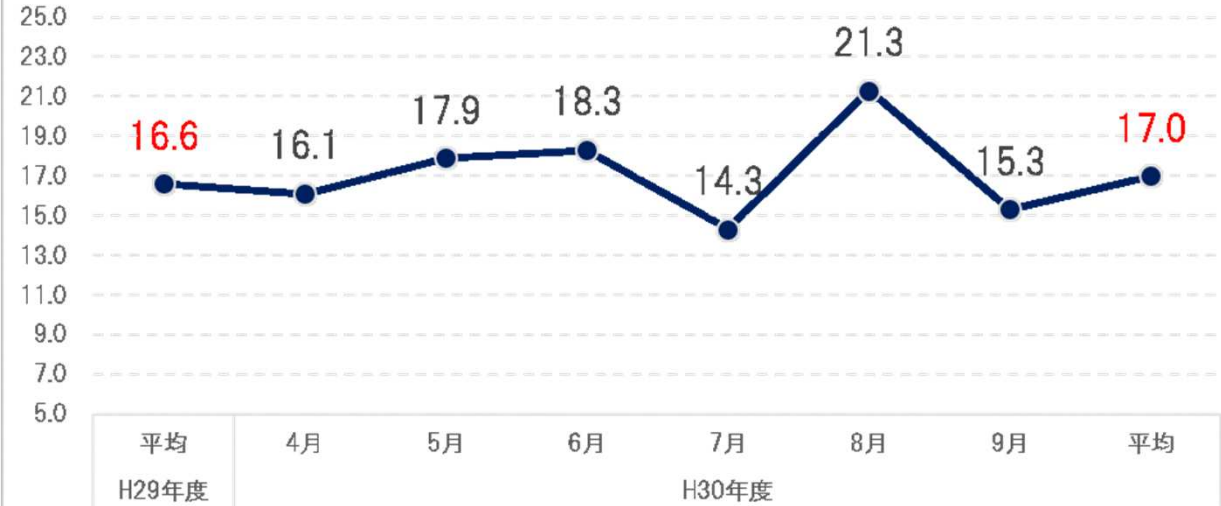


現状と課題 診療実績

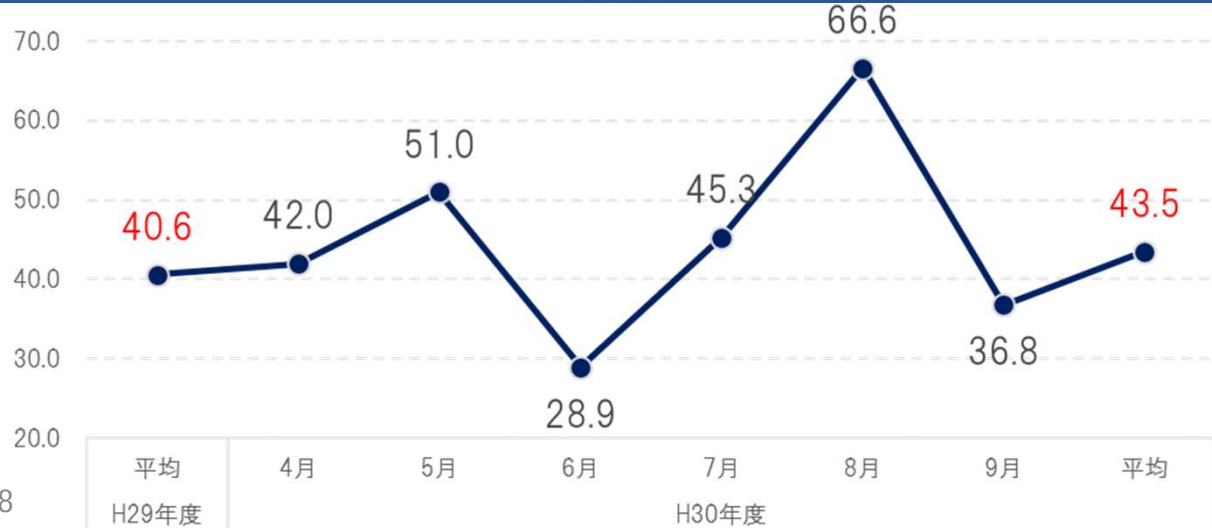
平均在院日数（一般病棟）



平均在院日数（地域包括ケア病棟）



平均在院日数（緩和ケア病棟）



一般病棟

新入院患者の受け入れ促進とともに、平均在院日数の短縮につながっている。平成29年度より10日以内で推移している。

地域包括ケア病棟

ポストアキュート、サブアキュートの受け入れにより、地域包括ケア病棟の平均在院日数は平成29年度より平均17日前後と、比較的短い在院日数で推移している。

緩和ケア病棟

平成29年度からの平均在院日数は40日前後で推移し、月によって増減がある。レスパイト利用の促進にも努めている。

熊本県指定がん診療連携拠点病院

熊本県指定のがん診療連携拠点病院として

- 質の高いがん医療を提供する体制の確立
- 地域の医療機関との連携を図り、がん診療に従事する医師、コメディカル等に対する研修及び各職種から構成される患者中心のチーム医療の実施
- 地域をはじめとした住民、市民へのがん医療に関する情報提供および相談支援

熊本県指定がん診療連携拠点病院

がん診療の充実

- 2人に一人ががんに罹患する時代
とくに高齢者がん診療の適正化
- ゲノム医療への対応
- 治験、臨床試験の充実：データの創出
- 検診、予防への対応（保健活動も含めて）
- 手術、化学療法などの急性期診療
- ACP（アドバンスケアプランニング）の普及・啓発
緩和ケアへの周知・啓蒙

くまもと森都総合病院の取り組み

1. がん診療
2. 急性期、救急医療
3. 専門性の提供
4. 地域の医療、介護福祉施設との連携
5. 医療人の育成

くまもと森都総合病院の取り組み

1. がん診療

- 乳がん、血液がんの症例数は県内トップクラスで、婦人科がん、肝臓・消化器がんの症例数も多く受け入れている。熊本県指定がん診療連携拠点病院としての役割を果たしていく。
- 緩和ケア病棟を充実させ、精神腫瘍科との連携体制を整備している。
- 在宅復帰に向けたがんリハを積極的に実施している。

くまもと森都総合病院の取り組み

2. 急性期・救急医療

- 当院にて治療中の症例の急変時対応はもとより、24時間体制で診療体制をとる整形外科疾患をはじめ、当院で対応可能な救急症例に対応していく。
- 総合診療科を中心に多くの診療科が協力して地域の急性期医療に対応していく。

くまもと森都総合病院の取り組み

3. 専門性の提供

- リウマチ疾患、皮膚疾患、肝臓疾患、眼科疾患などへの専門性を持った対応で地域から一定の評価を受けており、これを継続する。
- 各診療科とも今後更なる発展、寄与に努める。
- 広域連携による当院医療資源の有効活用に努める。

くまもと森都総合病院の取り組み

4. 地域の医療、介護福祉施設との連携

- アドバイザリーコミッティを開催し、地域の医療機関と意見交換を行いながら連携強化を進めている。
- ケアマネージャーが訪問しやすい環境を整備しており、積極的に退院前カンファレンスを行っている。
- MSWが介護福祉施設を訪問し連携を模索しているが、現状は十分ではない。高齢者の増加に対して介護福祉施設との連携を促進し、在宅療養支援体制の整備を進める。

くまもと森都総合病院の取り組み

5. 医療人の育成

- 熊大臨床教授5名を中心に全診療科で研修医教育を行っている。
- 熊大医学部生実習も積極的に受け入れている。
- チーム医療が求められる中、医療従事者の育成は最も重要な課題である。職員に対しては職種ごとに年間計画を立案して教育を実施している。また、多職種共同での研修も併せて実施している。
- 看護師、薬剤師、理学療法士、MSW、栄養士、診療情報管理士を目指す学生の実習を積極的に受け入れている。

1. がん診療 熊本県指定がん診療連携拠点病院

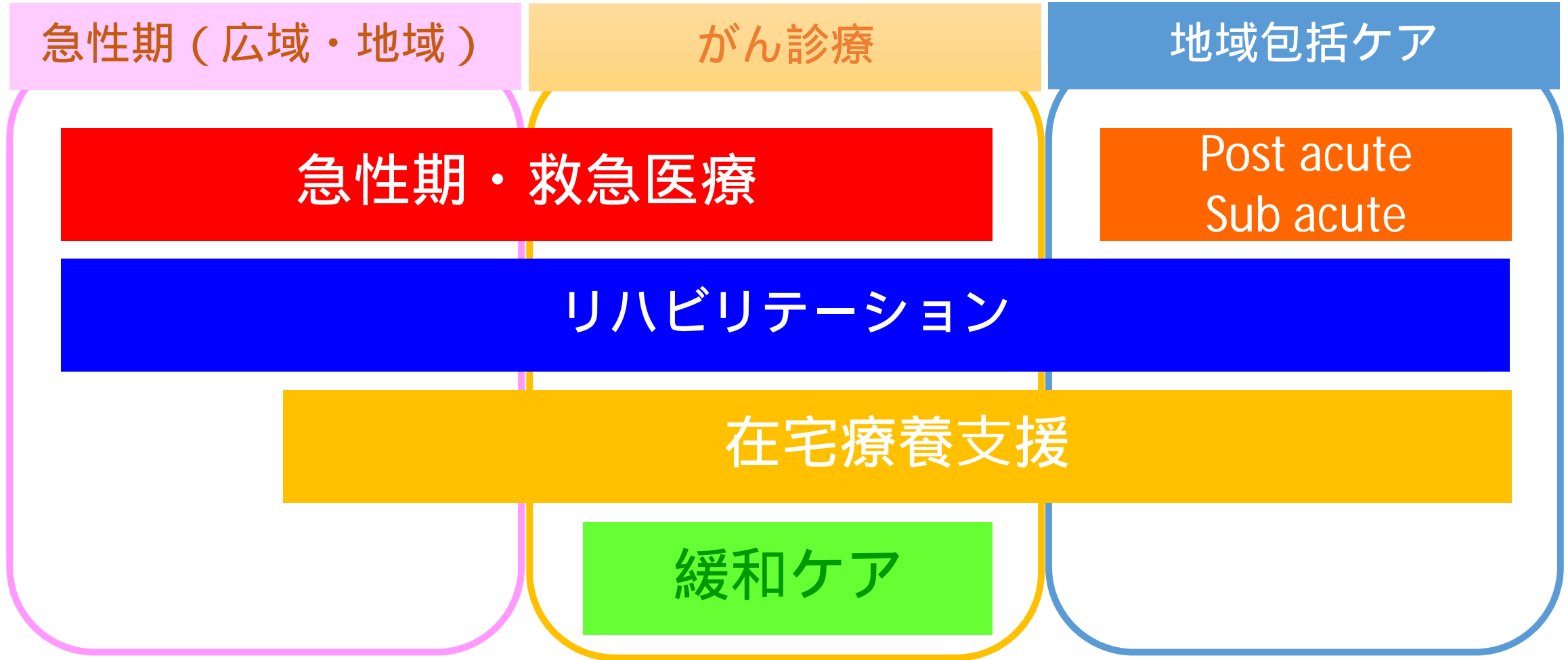
2. 急性期医療（広域・地域）

3. 地域包括ケア Post acute・Sub acute

4. 在宅療養支援 在宅医療支援病院

5. 地域医療を担う人材の育成 臨床研修病院

今後の方針 くまもと森都総合病院の医療提供体制



地域医療を支える医療者の育成

総合病院としての診療体制

具体的な計画 (1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 4機能ごとの病床のあり方 その1】

病床機能	2017年 (平成29年)	2023年	2025年
高度急性期			
急性期	199床	154床 (一般病棟)	154床 (一般病棟)
回復期		30床 (地域包括ケア病棟)	30床 (地域包括ケア病棟)
慢性期		15床 (緩和ケア病棟)	15床 (緩和ケア病棟)
その他			
合計	199床	199床	199床

具体的な計画 (1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 4機能ごとの病床のあり方 その2】

NTTの企業立病院から2011年の医療法人化、さらには2017年の新病院への移転をふまえて、地域の中核病院として「がん診療」と「地域医療」を担う総合病院を目指している。現診療機能を最大限発揮し、地域医療に貢献していく考えである。

<p>急性期 154床 (一般病棟)</p>	<ul style="list-style-type: none">・がん診療：血液内科、乳腺外科、消化器外科、肝臓・消化器内科、婦人科・急性期：リウマチ膠原病内科、総合診療科、皮膚科、眼科・救急：整形外科・リハビリテーションの充実（がんリハの充実）
<p>回復期 30床 (地域包括ケア病棟)</p>	<ul style="list-style-type: none">・整形外科、総合診療科：サブアキュート対応 多様なニーズへの対応・眼科、皮膚科：高齢者疾患への対応・循環器内科：心不全増悪などへの対応・平均在院日数短縮による他急性期医療機関からの転院受け入れ・リハビリテーションの充実
<p>慢性期 15床 (緩和ケア病棟)</p>	<ul style="list-style-type: none">・固形癌患者の症状緩和を中心に当院急性期病棟からの受け入れ・連携による他急性期医療機関からの転院受け入れ・レスパイト入院の受け入れ

具体的な計画 (1) 今後提供する医療機能に関する事項

【 診療科の見直し 】

	現時点 (2018年4月)	2025年	理由・方策
維持	肝臓・消化器内科、総合診療科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、リウマチ膠原病内科、外科、皮膚科、眼科、産婦人科、整形外科、乳腺外科、麻酔科、放射線科、緩和ケア科、呼吸器内科、内分泌内科、漢方内科、歯科口腔外科、病理診断科	維持	熊本医療圏の高齢化に対して多様なニーズに対応できる診療機能の維持の為。
新設		腫瘍精神科 腫瘍内科	がん診療の体制の充実を図る為。
廃止			
変更・統合			

	現時点 (2017年度平均)	2025年
病床稼働率	93.1%	94.8%
紹介率	41.7%	65.0%
逆紹介率	16.7%	40.0%

- がん診療体制のさらなる充実
- 専門性を持った医療の提供
- 地域に根差した医療連携の促進
- 地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟の活用

災害等の緊急時における病院診療機能の維持

→ 熊本地震から学ぶ教訓

- 平成29年4月に新築移転。新病院は免震構造となっており、患者の安全と診療機能維持に努める。
- 電子カルテサーバーをデータセンターに配置。（クラウド化）災害等の緊急時でも患者情報を保全するように配慮。